

# エラック口腔ケア News

本号より「多（他）職種との連携」を特集します。チーム医療の一環として、口腔ケアも現場スタッフのみならず、様々な職種の協力連携が必要なのは言うまでもありません。解説はケアマネージャーとして在宅口腔介護に経験豊富な歯科衛生士 斎藤美香先生（旭川市・DHケアプラン主宰）です。

口腔ケアの目的は、従来のムシ歯・歯周病や誤嚥性肺炎の予防に加え、口腔機能の維持、改善が重要視されるようになりました。口腔ケアは継続することが簡単そうで難しいと思われるのが現実です。簡単なポイントをおさえた相互の共通認識があれば、スムーズに口腔ケアの習慣化へと繋がります。

## 多職種との連携（1）～口から食べない人にも口腔ケアを～

利用者の生活を効果的効率的に支援するためには、歯科専門職を含む多職種との連携が重要です。実際の現場では他職種の方々とのコミュニケーションが取れるかどうかにより左右されることが多々あります。職種をこえた連携という考えで利用者を支援して行かなければならず、相互にある程度の共通認識を持たなければなりません。今回は口から食べない人にも必要な口腔ケアについてお話しいたします。

私が在宅で関っているKさんは介護度5で寝たきりの生活です。脳血管系の疾患を再発し、経鼻経管栄養となり、そして言葉も失いました。経口摂取しなくなった口腔はあつと言う間に廃用になり不衛生となりました。在宅療養に関っていた他職種の方々がそろっておっしゃったのは「食べてないのにどうして汚れるの？」でした。急速に口の中が汚れ、口臭もあるようになったため、驚かれたようです。

お願いしたことは「口腔ケア」でした。経管栄養となった時から「口腔ケア＝誤嚥」と思われたようで、口腔内にはほとんど触れず、たまに綿棒で清拭だけをしていました。

### 【食べてないのにどうして汚れるの？】

きれいに見える口の中、実は300種もの細菌が生息しています。

- ・食べてない人でも古い細胞に細菌が付いている。
- ・抵抗力が低下した方は感染しやすく、細菌が増殖、蓄積しやすい。
- ・舌や頬、顎の動き（口の機能）が衰えると唾液分泌が低下し、汚れはさらに付きやすくなる。

口の中の汚れをそのままにしていると、その上により一層汚れが溜まります。そうすると、ますます舌や頬、顎は上手く動かなくなり汚れを助長し、それこそ汚れを誤嚥し肺炎へとつながるのです。

### 【歯科専門職として多職種にお伝えしていること】

- ・誤嚥しにくい体位（健側を下にした側臥位、半座位、体が動かなくても顔は横に傾ける）
- ・最適な口腔ケア用具の選択（本症例はエラック510S口腔粘膜ケア用ブラシを使用）
- ・関る職種、全てに認知してもらうためのデモンストレーション。

上記に記したことをもとにKさんを中心とした多職種との連携は効果を上げており、歯科専門職の介入は定期管理となり、相互の情報交換をすると共にご家族をはじめ、お互いの刺激となっております。

口腔ケアは決して難しいものではありません。歯科専門職と上手く連携し「安全に楽しく」そして利用者が爽快感を実感できるよう習慣化しましょう。

